

# 2024年4月9日掲載 輸送経済新聞

## 中央研修所を一新

### 第一貨物 実技訓練棟も整備

第一貨物（本社・山形市、米田総一郎社長）は1日、同社研修施設「中央研修所」（山形県天童市）をリニューアルオープンした。集配ドライバーの積み付け作業などを模擬訓練する実技訓練棟を新たに設けるなど、教育施設を充実させ、人材育成を一層強化する。

（矢田 健一郎）

中央研修所は1962年、練習コースを備え、学生卒業者を対象とする集配ドライバーの教育を受けプロドライバーとなる。これまでの卒業生約2000人のうち約500人は現在も事務

務所長や現場長として同社の第一線で活躍している。中央研修所は全社の研修施設としても活用し、毎年1000人以上が研修を受けている。

研修中央棟は鉄骨造2階建てで、延べ床面積2892平方メートル。研修室3室、食堂、体育館の他、個室の宿泊施設は1階に男性用51室、2階に女性用20室、トイレ、シャワー・風呂もフロアで男女を分けた。女性区画にはセキユリティーを完備。

より実務に近い  
学びが可能

さらに、より実務に近い研修が可能な実技訓練棟を新設した。現場に出てから早期に活躍できるようにするのが目的。鉄骨造平屋建てで、延べ床面積は903平方メートル。事務所部分にはパソコン20



教育を一層充実し、持続可能企業として成長を目指す（左は研修中央棟外観、右は実技訓練棟内部）

台を置き、社内システムを用いた貨物照会、到着時間案内、万一のクレーム対応を学べる。荷さばき場は、現場と同じ床面高さで集配バス1E0Qが、運行バス1300Qが、集配ドライバーを中心に、さまざまな形状・荷姿の貨物の実践的荷扱いを訓練できる。ロジスティクス現場を担う「ロジオペ職」の採用にも注力する中、フリーの組む」とした。

オークリフトやハンディ端末を使ったパレット貨物の荷扱い訓練を行える設備も、月内をめどに導入する考え。

「他社にない施設。強みの教育体制の充実をアピールしたい」と仁科秀樹常務。松田伸三常務は「生徒が大型連休で自宅に帰った際、家族や高校の進路指導の先生に良い報告をしてもらえよう」とした。